

日本語要約・臨床解説

インプラント上部構造の不適合は、どこまで予後に影響するか。

不適合とスクリュー合併症に関連を認めた研究は1件。関連が一貫しないことは、不適合を許容してよい根拠ではない。

補綴 / システムティックレビュー

複数ユニット固定性補綴の6研究。

研究デザインと対象の違いを踏まえて解釈。

01 研究の要点

目的

複数ユニットのインプラント支持固定性補綴装置で、不適合が長期の臨床成績に及ぼす影響を調べた。

方法

2025年12月まで5データベースと手検索を用い、6研究を採用。生存、スクリュー、補綴装置、周囲骨の4領域を評価した。

結果

1研究で、不適合が大きいほどスクリュー合併症が多かった ($p=0.005$)。多くの研究では臨床成績との一貫した関連を認めなかった。

結論

証拠は限られ、特に交絡の調整が不十分。不適合と骨吸収に明確な関連がないことを、安全性の証明とみなせない。

読み取れること

- 「許容できる不適合量」はこの抄録から決められない。
- 低バイアス評価でも、群間比較の条件は十分でない。
- スクリュー合併症と骨吸収を別々の結果として読む。

02 臨床で考える

不適合の評価と、装着後の機械的な問題を結び付けて記録しているか。

1. 製作・試適・装着時にどう適合を確認したかを記録し、技工側と判定基準を共有する。
2. 緩みや破折が生じた際は、不適合だけに原因を求めず、補綴設計や咬合、装着条件も再評価する。
3. 新たな測定法を採用する前に、原著での不適合の定義と自院の方法が対応しているかを確認する。

数値的な関連が乏しいという理由で、適合確認を省略することは支持されない。

臨床で深く読む

原著の報告と編集上の解釈を区別した解説です。AI編集・歯科医師未監修。

適合不良と合併症の関連が不明瞭でも、許容できる隙間の基準にはならない。

複数ユニットのインプラント固定性補綴では、より大きなmisfitとスクリュー合併症の関連を示した研究がある。一方、多くの研究では転帰との一貫した関連がみられなかった。測定法や交絡を含む限定的な長期資料から、適合確認を省く判断は導けない。

対象

複数ユニットのインプラント支持固定性補綴を扱う6研究。患者数・インプラント数は抄録に記載なし。

介入・評価対象

補綴装置の適合不良の程度。

比較

適合不良の程度が異なる補綴装置・症例。共通の閾値や測定方法は抄録から確認できない。

評価項目

インプラント累積生存、スクリューの緩み・破折、補綴合併症、インプラント周囲骨喪失。

追跡・評価時点

長期転帰を対象とするが、各研究の具体的期間は抄録にない。検索は2025年12月まで。

結果の大きさを、診療の視点で読む

スクリュー合併症

原著の報告：1研究のみ、より大きなmisfitに伴うスクリュー合併症増加を報告した ($p=0.005$)。

臨床での読み方：関連の方向は示すが、発生率や効果量が抄録にないため、何倍増えるかは説明できない。

骨喪失とその他の転帰

原著の報告：大半の研究では臨床転帰との一貫した関連がなく、周囲骨喪失との明確な関連も認められなかった。

臨床での読み方：「明確でない」は害がないことや同等性の証明ではない。複数の転帰を一つの安全性評価にまとめない。

目の前の患者に、どこまで重なるか

研究に近い条件：複数ユニット補綴の適合評価と、装着後のスクリュー関連トラブルを院内で検討する場面。

未確定の範囲：単冠や別の支持様式への外挿、許容misfitの数値、調整・再製作の境界はこの抄録では定められない。

低リスク評価だけでは交絡は消えない

NOSによる評価では全6研究が低リスクとされたが、多くで比較可能性の領域が弱く、交絡の調整が不十分と記載されている。

少数の長期研究

採用は電子検索から4報、手検索から2報。長期資料の不足が結論を制約しており、有意差を示した1報を全症例に一般化しない。

自院で検討するなら

- ・ スクリュー合併症を振り返る際は、適合評価の測定法と記録時点を確認し、misfitという一語だけで症例を分類しない。
- ・ 骨喪失と機械的合併症を別々に記録し、適合不良以外の背景がどこまで検討されたかを原著で確認する。

患者さんへの説明例

複数のインプラントをつなぐ補綴装置では、適合のずれとねじのトラブルの関連を調べた研究があります。ただ、長期の研究は少なく、ずれの大きさだけで将来の問題を予測することはできません。この論文だけで、どの程度なら問題がないという基準を決めることもできません。

患者の希望と治療条件に合わせ、歯科医師が内容を検討するための研究説明例です。個別の治療結果を保証するものではありません。

同僚と考える問い

自院のスクリーントラブル記録には、装着時の適合をどの方法で確認したかまで残っていますか？

コメントする：<https://nakanoyuyadental.com/articles/implant-prosthesis-misfit#comments>

臨床解説の確認資料：原文抄録（PubMed）（Methods / Results / Conclusions（質的研究は主題・解釈を含む））
<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/42693826/>

研究の限界・解釈上の注意

- ・ 長期研究が少なく、交絡因子を十分に調整していない。
- ・ 補綴装置や不適合の測定・閾値の詳細は全文確認が必要。
- ・ 関連がないという結果は、重要な差を除外できたことを意味しない。
- ・ 原文抄録を確認。全文の方法・補足資料は未確認。

03 原著・資料の範囲

Clinical implications of misfit in multiunit implant-supported fixed dental prostheses: A systematic review.

He Z, Bennani V, Aarts JM, Choi JJE, Veerasamy A.

Journal of prosthodontics : official journal of the American College of Prosthodontists | 原著公開日：2026-09-04

PMID：42693826 | DOI：10.1111/jopr.70231

PubMedで原文抄録 : <https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/42693826/>

出版社の原著 : <https://doi.org/10.1111/jopr.70231>

資料確認・作成日 : 2026-09-15

収録範囲 : 既存の日本語要約と編集上の臨床解説。原著全文の翻訳ではありません。確認範囲と未確認事項は上記の限界欄に記載しています。

免責事項 : AI作成・歯科医師による監修未実施。医療者の学習用資料であり、個別患者への診断・治療指示ではありません。臨床判断に用いる前に原著と最新の診療指針を確認してください。